

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 3 部門第 1 区分
 【発行日】平成30年4月5日(2018.4.5)

【公表番号】特表2017-508702(P2017-508702A)
 【公表日】平成29年3月30日(2017.3.30)
 【年通号数】公開・登録公報2017-013
 【出願番号】特願2016-550836(P2016-550836)
 【国際特許分類】

C 0 3 B 37/01 (2006.01)

C 0 3 C 8/06 (2006.01)

【F I】

C 0 3 B 37/01

C 0 3 C 8/06

【手続補正書】
 【提出日】平成30年2月7日(2018.2.7)

【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

低融点ガラスフリットまたはファイバを形成する方法において、
 低融点ガラスを含むガラス原材料を提供する工程、および
 前記ガラス原材料を溶融紡糸して、ガラスファイバを製造する工程、
 を有してなり、
 前記ガラスファイバのガラス転移温度が、前記ガラス原材料のガラス転移温度の約 1 2
 0 % 以下である、方法。

【請求項 2】

前記低融点ガラスのガラス転移温度が約 4 5 0 未満である、請求項 1 記載の方法。

【請求項 3】

前記低融点ガラスが無鉛である、請求項 1 または 2 記載の方法。

【請求項 4】

前記ガラス原材料が、T i c k ガラス組成物および / または e C a p ガラス組成物から
 選択されたくずガラスを含む、請求項 1 から 3 いずれか 1 項記載の方法。

【請求項 5】

前記ガラスファイバのストランド厚が約 5 0 0 マイクロメートル未満である、請求項 1
 から 3 いずれか 1 項記載の方法。

【請求項 6】

前記ガラスファイバをジェットミルに導入して、ガラスフリットを製造する工程をさら
 に有する、請求項 1 から 5 いずれか 1 項記載の方法。

【請求項 7】

前記ジェットミルが、窒素、アルゴン、ヘリウム、クリプトン、および / またはキセノ
 ンから選択される不活性ガス雰囲気を含む、請求項 6 記載の方法。

【請求項 8】

前記ガラスフリットの平均粒径が約 1 5 0 マイクロメートル未満である、請求項 6 また
 は 7 記載の方法。

【請求項 9】

前記ガラスフリットのガラス転移温度が、前記ガラス原材料のガラス転移温度の約 1 2 0 % 以下である、請求項 6 から 8 いずれか 1 項記載の方法。

【請求項 1 0】

前記ガラスフリットのガラス転移温度が約 2 5 0 未満である、請求項 6 から 9 いずれか 1 項記載の方法。